困難を抱える若年女性支援の取組について

令和８年11月６日　子ども未来局　【資料５】

1　現在の若年女性支援の状況

事業名	困難を抱える若年女性支援事業　LiNK	妊娠SOS相談事業
概要	様々な困難を抱える若年女性の自立を目的として実施。 **①相談窓口の設置** LINEやXによる相談のほか、電話による緊急ホットラインを設置。 **②アウトリーチ支援** 繁華街等における夜回りや相談スペース（LiNKafé）の設置、SNSを用いた声がけを実施。 **③居場所の提供** 一時的な安全・安心な居場所「ヒミツノハコ」（シェルター）」を提供し、相談や見守り等を実施。 **④関係機関と連携した自立支援** 公的機関や民間支援団体等、対象者のニーズに即した適切な関係機関へのつなぎを実施するほか、必要に応じた自立支援計画の策定。	予期せぬ妊娠等により悩みや不安を抱えた妊産婦へ相談支援、居場所支援、自立支援等を行い、虐待の発生予防、早期発見を行うことを目的として実施。 **①「にんしんSOSほっかいどうサポートセンター」の設置** 北海道と共同で設置。妊産婦等からの相談に24時間365日体制で対応する。SNSによる匿名の相談や、必要に応じてアウトリーチ支援も実施。居所が不安定などの事情のある妊産婦等へは入居できる居場所を提供し、生活支援・育児支援等の自立支援も行う。 **②特定妊婦と疑われる者に対する産科受診等支援** 産科医療機関等への受診同行及び妊娠判定に係る費用を一部（上限5,000円）助成し、関係機関へつなぐ体制を整備する。
実績	①【相談件数】R6:184人、R7：441人②【SNS見回り声かけ人数】R6:1,112人、R7:681人 ②【夜回り声かけ人数】R6:293人、R7:338人②【LiNKafé来場者数】117人（R7年10月～） ③【保護人数（短期）】R6:5人、R7:10人【保護人数（長期）】R6:2人、R7:4人 ④【関係機関につないだ人数】R6:6人、R7：17人	①【相談件数（延）】R6:5,449件、R7:8,815件、R8:4,794件（9月末時点） 【居場所支援利用人数】R6:12人、R7:8人、R8:7人（9月末時点） ※R6年度2床→R7年度4床へ増床 ②【初回産科受診料助成件数】R6:9件、R7:10件、R8:8件（9月末時点）

2　新たな取組及び今後の対応

①札幌薬剤師会との連携による周知強化

令和８年２月に一部の薬局において、処方箋なしの緊急避妊薬の販売が開始されたことを契機に、札幌薬剤師会と新たに連携し、市内会員薬局（770カ所）を通じて妊娠SOS相談事業の周知を開始。

②緊急避妊薬の購入に係る同行支援

18歳以上の未婚女性を対象に、緊急避妊薬の購入が困難な場合にLiNKにて薬局等への同行支援を行う取組を開始（実績なし）。

③早朝の繁華街における相談スペース（LiNKafé）の設置

始発を待つ若年女性等と接点を持つことを目的に、早朝のすすきの地区において、おにぎりや豚汁、妊娠検査薬等の提供をきっかけとした相談支援や、LiNK・にんしんSOS・民間支援団体の事業を周知。今後も設置の場所や時間帯等、アプローチ方法を工夫することにより、困難を抱えた若年女性の相談先としての認知を拡大していく。

④若者の視点を取り入れた広報の工夫

困難な状況にある若年女性や妊婦は人に頼ることに不慣れな場合が多い。相談のハードルを下げ、支援につながりやすくするため、大学生など若い世代の意見等を取り入れながら、効果的な広報手法を検討していく。

3　課題

○相談件数が増加しておりニーズの高さがある一方で、若年女性の抱える課題は複雑複合化しており、対応に難しさがある。

○妊娠中に必要な支援・医療を受けずに出産まで至るケースが一定数存在する。

○人を信頼することに不慣れな若年女性が多く存在し、事業の匿名性も高いことから、必要な情報や抱えている悩みを聞き取る前に途切れてしまう等、必要な支援につながらないことがある。

困難を抱える若年女性支援の取組について

４　困難を抱える若年女性等を支援する多部局・多機関の連携体制

